

## 児童が主体的に取り組み、自らの考えを深める道徳授業づくり

～心に響く教材の開発・活用と意見交流の場の設定を通して～

豊見城市立長嶺小学校教諭 比嘉 頼子

### I テーマ設定の理由

近年、社会全体のモラルの低下、家庭や地域社会の教育機能の低下、自然体験の不足、社会変化に伴うさまざまな課題等、児童の道徳性の発達を妨げる課題が多々指摘されている。特に、いじめ問題は深刻な状況にあり、尊い命が失われるといった痛切な事案まで発生している。それに対応すべく学校の道徳教育も大きな役割を果たすことが求められ、平成27年3月に小学校学習指導要領が一部改正された。新学習指導要領 特別の教科 道徳では、自らの課題に向き合い、自らの考えを深めさせ、主体的に学習に取り組みさせるような工夫をすることが求められている。また、教材については、児童が多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような教材の開発や活用を行うよう示された。さらに、これまでの指導が、読み物の登場人物の心情理解のみに偏ったものであることが課題として挙げられており、それを受け、考え、議論する道徳科への転換を図ることが求められている。このようなことから、児童が主体的に取り組み、自らの考えを深める道徳の授業づくりが必要であると考えた。

本学級の児童は、教師の意図することを感じ取り、表面的な発言をすることがある。また、発言が一部の児童に偏ってしまい、多様な考えに触れられず、自らの考えを深めるまでには至っていない。

これまでの授業実践を振り返ると、児童が興味を持って取り組んだり、心を動かされたり、身近なこととして捉えたりできるような教材を活用していなかったために、児童自らの課題として考えさせることができなかつたこと、また、読み取り的な指導になっていたために、児童の様々な考えを引き出せず、道徳的価値についての理解を深めることが難しかったことが課題として挙げられる。

児童が自らの課題に向き合ったり、道徳的価値について深く考えたりできるような道徳の時間にするためには、児童が感動を覚えたり、自分の問題として捉えたりすることができるような教材を用いて授業を展開することが重要であると考え。そのためには、目の前にいる児童の実態に合わせた教材や教師自らが感動し、児童に伝えたいと思えるような教材を開発する必要があると考える。また、児童がいろいろな感じ方、考え方に接するような意見交流の場の工夫等をする必要があると考える。仲間と対話したり、協働したりしながら価値を理解すると同時に相手のことも理解し、さらに、自らの考えを深めるためにも、意見交流の場の工夫は大切であると考え。

したがって、本研究では、児童の心に響く教材の開発・活用や、多様な考え方に触れるような意見交流の場の設定を行うことで、児童が道徳の学習に主体的に取り組み、自らの考えを深めることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

道徳の授業において、心に響く教材の開発・活用や意見交流の場の設定を行えば、児童が学習に主体的に取り組み、自らの考えを深めることができるであろう。

## 2 検証計画

検証授業の対象：豊見城市立長嶺小学校2年3組			
	検証の場面	検証の観点	検証の方法
①検証授業	展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発した教材を活用して授業を行うことにより，児童が自分の課題として考えることができたか。</li> <li>意見交流の場の設定をすることにより，多様な考え方に触れ，道徳的価値の理解を図ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ワークシート</li> <li>ふり返り（自己評価）</li> </ul>
②検証授業前後の調査	道徳授業に関するアンケート 事前（平成27年12月） 事後（平成28年1月）		・アンケートの比較・分析
③まとめ	道徳の授業において，心に響く教材の開発・活用や意見交流の場の設定を行うことは，児童が学習に主体的に取り組み，自らの考えを深めることに有効だったか。		上記①，②の結果

## Ⅲ 理論研究

### 1 児童が主体的に取り組み自らの考えを深める授業とは

#### (1) 道徳科における主体的な学習とは

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（以後「道徳編」と表記）では、「指導内容を児童が自分との関わりで捉え，切実感をもって学習することで真に児童が習得することにつながるものである。そのためには，児童の主体的な学びが必要になる。学習指導においては，児童自らが主体的に学ぶための教師の創意工夫が求められる。」「道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの授業を行った場合には，児童が道徳的価値を自分との関わりで捉え，自らの将来に進んで生かそうとする姿勢をもてるような主体的な学習にすることが求められる。」と述べられている。

これまでの道徳の授業は，教師主導型になりやすく，児童が自ら考えたり，自分なりの意見を発言したりする場面を十分に設定することができなかった。これからは，受け身の学びではなく，児童の主体的な学びが求められている。要するに，資料が示す内容を他人事ではなく，自分のこととして考え，向き合っていくとする態度である。昨今の変動の激しい社会を生き抜くためには，様々な問題に向き合い，解決しようとする姿勢が大事である。道徳科においても，道徳的価値を自己と照らし合わせながら考える前向きな姿勢が求められている。このように，道徳科における主体的な学習とは，道徳的価値を自分との関わりで考えようとする姿勢や自らの将来に進んで生かそうとする姿勢と考える。

#### (2) 自らの考えを深めるとは

道徳編には，「児童が将来，様々な問題場面に出会った際に，その状況に応じて自己の生き方を考え，主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには，道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。」とあり，価値理解について以下のように記されている。

- ① 内容項目を，人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
- ② 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。
- ③道徳的価値を理解したり，実現出来なかつたりする場合の感じ方，考え方は，一つではない，多

様であるということを前提として理解すること。

以上のようなことから、道徳的価値の理解をすることが、自らの考えを深めることにつながっていくと考える。つまり、自分なりの考えをもとに、意見交流をする中で、友達の考え方や感じ方に接しながら、道徳的価値の理解を図ることであると捉える。

## 2 教材の開発について

### (1) 教材開発の意義

道徳編においては、「主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。」と述べられている。また、荒木(2015年)は、「一般的に、教科書は日本全国の児童生徒の『平均的な姿』を視野に入れて作成されるものである。従って、地域や学校、学級の実態に合わせてみれば『使いづらい』ものも当然出てくる。(中略)教科書は主たる教材で、教材のすべてではないということである。つまり、道徳教育の目標を達成するためには、汎用性の高い教科書だけでは、目の前の児童生徒には不十分なのである。だからこそ、地域に根ざした郷土資料や多様な教材を併せて用いることが必要となってくる。」と述べている。教材の開発を行うことは、道徳教育を充実させるためにはどうしても必要な視点だとも述べている。このようなことから、道徳の時間においては、教科書教材だけではなく、児童の実態や地域性等を踏まえた教材を開発し活用することが大切であると考ええる。

### (2) 道徳科に生かす教材

道徳編では、「道徳科に生かす教材は、児童が道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習に資するものでなければならない。また、児童が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学びあう共通の素材として重要な役割を持っている。」と述べられており、教材の条件として以下のように記されている。

#### 教材の条件

- ・児童の発達に則し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
- ・人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。
- ・多様な見方や考え方でできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取り扱いがなされていないものであること。

以上の条件を考慮に入れながら教材開発を行う必要があると考える。

### (3) 道徳科に生かす教材の開発

道徳編では、教材の開発をする場合、日頃から様々なメディアや書物、身近な出来事等に関心を持ちながら、柔軟な発想で教材を広く探そうとする姿勢が大切であると述べている。具体的には、「生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材として、児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用が求められる。」と記されている。例えば、低学年の児童の実態に合わせると、実話、民話、漫画、紙芝居などの読み物が挙げられている。

### (4) 心に響く教材の開発

心に響く魅力的な資料について、文部科学省の指導資料『心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』(2012年)に、次のように示されている

- ・子どもの興味・関心や発達に応じ、親近感が持てるもの
- ・子どもの感性に訴え、感動性の豊かなもの
- ・意外性や問題性を含み子どもが自分の課題としてとらえることができるもの
- ・主人公の迷い、弱さ、葛藤、生きる喜びなどが浮き彫りになっているもの

・やってみよう、調べてみようとする意欲を引き出し、体験や学習が広がるもの

以上の内容が、心に響く教材のもとになるものと捉え、教材を開発するときの視点にした。その中でも、特に大切にしたい視点は3つである。一つ目は、感動性である。佐藤(2008年)によると、「自分が感動したことしか、子どもたちには伝えられない。」と述べている。教材を吟味する視点として、この感動性は、大切にしたいと考える。二つ目に大切にしたいのは課題性である。新学習指導要領にも、自らの課題に向き合うことが大切であると示されている。児童が、他人事ではなく、自分のこととして考えられるものを視点として大切にしたい。三つ目の視点は、親近感である。児童が、親近感を持てる資料なら、自分との関わりで価値について捉えやすくなると考える。以上のようなことから、感動性、課題性、親近感をキーワードに教材開発を行う。

### 3 意見交流の場の設定について

#### (1) 意見交流の意義

道徳編では、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、さらに自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのである。」と述べている。これは、児童が多様な考えや感じ方に触れることで、諸価値について理解を深めながら、自分の考えを確立していくことを意味している。そこで、児童が多様な考え方に接する機会を作るために、意見交流の場の設定を行う必要があると考える。

#### (2) 考えを深める意見交流の工夫

図1のような流れで、意見交流を行う。

- ①「自分タイム」・・・1分間程度、一人でじっくりと考える時間を与える。話し合いの前に、自分なりの考えを明確にしたり、判断したり自己決定する時間である。
- ②「グループ交流タイム」・・・「自分タイム」の次に、自分の考えを基にして、3人から4人グループでの意見交流を行う。「グループ交流タイム」を設定する。道徳編には、「自分とは異なった考えに接する中で自分の考え方や感じ方が明確になるなど、学習が深まる」とある。自分の考えをグループの友達に伝えるとともに、友達の多様な考え方に触れる時間である。
- ③「全体交流タイム」・・・全体の場でグループの代表が、グループの考えを発表する。授業での学びを通して、感じたこと、考えたこと、考えが変わったことなどを発表し、学級全体で価値の理解を深めていく時間であり、自分なりの考えを再構築する時間である。
- ④「ふりかえりタイム」・・・学んだことをふりかえりながら、これからの自分の生き方について考えさせる時間である。道徳編には「書く活動は、児童が自らの考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。」と記されている。よって、キーワードを使って視点を与え、ノートやワークシートに書かせることで、さらに、考えを整理し、深めていく時間である。

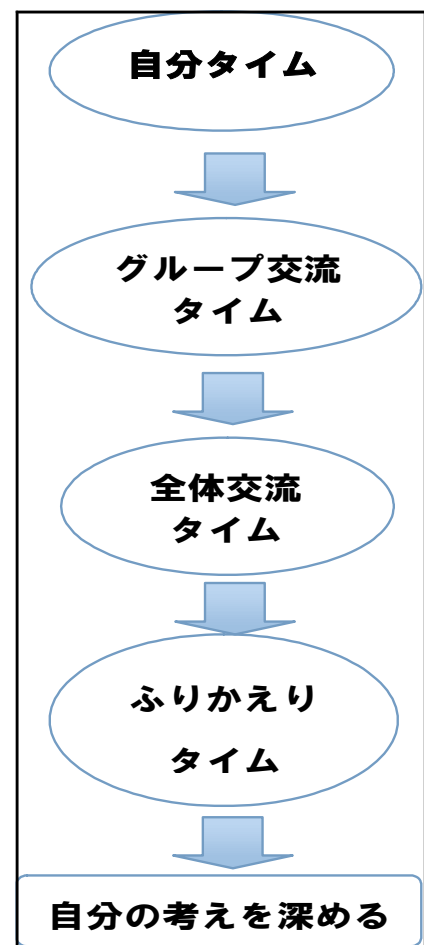


図1 意見交流の流れ

## IV 指導の実際

### 1 検証計画

教材名	ねらい	評価方法	実施日時
からすたろう B－友情，信頼	人には皆，長所があることを知り， 自他を肯定して生活する心情を養う。	・授業観察 ・ワークシート	1月15日(金) 9:35～10:20
みよばあちゃんの幸せ D－生命の尊さ	命を大切にしようとする心情を育 てる。	・ふり返り (自己評価)	1月22日(金) 9:35～10:20

### 2 検証授業1

(1) 主題名 友だちと仲良くし，助け合うこと 内容項目【B－友情，信頼】

(2) 教材名 「からすたろう」 (絵本 八島太郎文・絵 偕成社)

#### (3) 主題設定の理由

##### ① ねらいとする道徳的価値

本主題は、「友達と仲良くし，助け合うこと」という第1学年及び第2学年のB「友情・信頼」の内容項目である。

児童にとって，友達関係は重要な人間関係の一つである。友達関係によって学校生活が充実したものになるかそうでないかが左右されることも少なくない。よりよい友達関係を作るには，互いを認め合い，理解し合いながら信頼関係や友情を育てていくことが大切である。しかしながら，自分と違うところがある者を認めることができずに，排除しようとし，いじめにつながる場合も少なくない。そこで，主人公のたくましく生きる姿や，その子を認め，信頼関係を築く担任教師の姿から，誰にでも長所があり，相手を認めて，誰とでも仲良くしようとする心情を育てたい。このように，誰とでも仲良くし，友達を大切にしようとする心情は，いじめ問題で苦しんでいる児童生徒が増えている現在，特に大切にしなければならない道徳的価値であると考ええる。

##### ② 児童感(省略)

##### ③ 教材観

本教材「からすたろう」の主人公であるたろうは，みんなとは少しちがうところがある男の子である。たろうは，「チビ，うすのろ，とんま」と呼ばれ，周りの人たちから馬鹿にされている。皆から仲間はずれにされ，休み時間は一人だけのけものにされている。いつも，ひとりぼっちのたろうの寂しさ，つらさは，同年代の小学生の児童にとって想像するに難くない。よって，いじめられている児童や仲間外れにされている児童の気持ちを考えるのに適した教材であると考ええる。また，一日も休むことなく学校に通うたろうのたくましく，健気な生き方は，児童の心に感動を与えると考える。さらに，6年生の担任の磯部先生との出会いによって，たろうはみんなから認められる存在となる。たろうの生き方や磯部先生のやさしさから，児童は相手を認め，どんな友だちとも仲良くすることの大切さに気づかせることができる効果的な教材であると考ええる。

本教材を開発するにあたっては，心に響く教材のキーワードの感動性と課題性の視点を大切にしました。すなわち，皆に馬鹿にされても，仲間外れにされても，毎日学校に通うというたろうのたくましい生き方が，児童に感動を与えると考えるからである。また，近年，大きな問題となっているいじめに対して，自分の課題として考えさせることができる教材であると考ええる。

#### (4) 本時のねらい

人には皆，長所があることを知り，自他を肯定して生活する心情を養う。

#### (5) 授業仮説

- ① 心に響く教材の主人公であるたろうの気持ちに寄り添わせることで，自分の課題として考えることができるであろう。
- ② 意見交流を通して多様な考えに触れさせることで，友達を大切にすることについての道徳的価値を理解することができるであろう。

(6) 準備 ・絵本 ・場面絵 ・発問用短冊 ・ワークシート

(7) 展開

	学習活動と○主な発問 ◎中心発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 クラスに友だちが何人いるか確認する。 ○クラスに友だちは何人いますか。	(クラスの子全員と友だちの子は数人)	・実態を把握し、誰とでも友だちになるにはどうすればよいかの視点につなげていく。
展開 前段 32分	2 「からすたろう」の絵本の読み聞かせを聞いて話し合う。 ○からすたろうは、どんな男の子ですか。  ○友達がなくて、いつもひとりぼっちのたろうの気持ちを考えましょう。  ○まわりの子どもたちが、たろうのことを、仲間に入れなかったり、「ちび」「うすのろ」「とんま」と呼んだりしたのはどうしてか考えよう。 ◎たろうに対するみんなの気持ちがかかったのは、なぜでしょう (自分タイム) (グループ交流タイム) (全体交流タイム)	・ちびと呼ばれている。 ・何一つ覚えることができない・うすのろ、とんま ・みんなとちがう。  ・さみしい ・だれか話しかけてくれないかな。 ・仲間に入りたくない。  ・みんなとちがうから。  ・6年間、一日も休まず、学校にきたから凄いなと思った。 ・からすの鳴き声が上手だったから。 ・からすたろうのすごいところやいいところがあったから。	・話を途中で区切る。  ・みんなとちよっとちがうことを押さえる。  ・たろうの気持ちを考えさせることで、いじめられている子の気持ちを理解することへつなげる。 ・仲間はずれにした子どもたちの気持ちを考えさせる。  ・今まで気づかなかったたろうのよいところ、すごいところに着目させる。 ・たろうにもいいところがあり、よさを認めてあげることの大切さに気づかせる。
展開 後段 8分	3 だれとでも仲良くするためには、どうしたらいいか考える。 (ふり返りタイム) ・キーワードを使って、まとめさせる。(考える視点) 「学習をして大事だと思ったことは」「これまでの自分は」 「これから大事にしていきたいことは」		・教材から離れて、自分の問題として考えさせる。 ・相手のいいところを見つけ、認めてあげることの大切さに気づかせる。
終末 2分	4 担任教師の体験談を語ることで、友だちの違いも受け入れて、みんなと仲良くすることの大切さを伝える。		

(8) 評価

相手を認めてあげることの大切さに気づき、友だちと仲良くしようとする心情を育てることができたか。

3 検証授業 2

(1) 主題名 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にする 内容項目【D-生命の尊さ】

(2) 教材名 「みよばあちゃんの幸せ」 (紙芝居：自作教材 比嘉頼子著 )

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

本主題は、「生きることのすばらしさを知り、生命を大切にする」という第1学年及び第2学年のD「生命の尊さ」の内容項目である。

第二次世界大戦で、沖縄では地上戦によって多くの命が犠牲となった。沖縄の悲しい歴史に触れるとともに、戦争で片腕を失っても人を憎まず、命あることに感謝しながらたくましく生きる主人公の祖母の姿から、命を大切にすることの心情を育てたい。また、祖父母や曾祖父母が戦争を生き抜いたからこそ、主人公かなこが生まれたことに触れ、命がつながっていることに気づかせたい。

このように、自分の命も相手の命も大切にすることは、いじめ問題で命が失われるといった痛ましいことが次々に起こっている現在、最も大切にしなければならない道徳的価値であると考えられる。

② 児童観 (省略)

③ 教材観

本教材「みよばあちゃんの幸せ」は担任教師の祖母の実話をもとに、道徳の資料として再構成した。

主人公かなこの祖母みよばあちゃんは、13歳という多感な時期に戦争に巻き込まれ、左腕を失った。その絶望は計り知れない。みよばあちゃんの孫娘かなこは、大好きなみよばあちゃんをこんなにひどい目に遭わせたアメリカ人のことが憎くてしょうがない。しかし、みよばあちゃんは、自分の手を奪ったアメリカ人を憎むことなく、命があることに感謝し、たくましく生きる。「アメリカ人が憎いんじゃないよ。戦争が憎いんだよ。」みよばあちゃんの言葉は、いつまでも、いつまでもかなこの心に響く。かなこは、相手を許す寛大な心を持ったみよばあちゃんのことが、よりいっそう好きになり、心から尊敬する。

本教材を開発するにあたっては、心に響く教材のキーワードの感動性と親近感の視点を大切にしたい。すなわち、みよばあちゃんの「アメリカ人が憎いんじゃないよ。戦争が憎いんだよ。」の言葉や片腕を失ってもあきらめずたくましく生きる生き方が、児童に感動を与えると考えるからである。また、登場人物に「おばあちゃん」を設定することで、児童の身近な存在として親近感を感じさせることができると考える。「罪を憎んで人を憎まず。」という祖母であるみよばあちゃんの生き方から、命の大切さについて気づかせることができる効果的な資料であると考えられる。

④ 指導観

導入では、1月初旬に行った「誕生学」で、命が誕生するまでの様子や誕生したときの様子について学んだことを想起させ、命について考えていくことへの方向付けを図る。

展開前段では、教師自作の紙芝居を使って、視覚的に登場人物の様子や状況の把握をさせる。主人公かなこの気持ちと、13歳の時に片腕を失ってしまったみよばあちゃんの気持ちを考えさせることで、絶望から立ち上がり、生き抜いたことにより、幸せといえる人生をおくることにつながったみよばあちゃんの生き方に共感させる。

次に、「自分タイム」では、「みよばあちゃんの幸せとは何か」という発問に対する自分の考えを持たせる。それから、「グループ交流タイム」では、自分の考えをグループで交流させることで、多様な感じ方、考え方に触れさせる。さらに、全体交流タイムでは、グループの代表が、グループの意見をまとめて、全員で討議することにより、価値の理解を深めていくようにする。

展開後段の「ふり返りタイム」では、命の学習をして考えたことをまとめさせる。その際、キーワード「学習をして大事だと思ったことは」「これまでの自分は」「これから大事にしたいことは」を使って記述させることで、考える視点を与え、これからの自分の生き方を考えさせたい。

(4) 本時のねらい

沖縄戦をくぐり抜けてきた主人公の祖母の生き方を通して、命の大切さに気づかせ、命を大切にしようとする心情を育てる。

(5) 授業仮説

- ① 心に響く教材の登場人物であるみよばあちゃんやかなこの気持ちに寄り添わせることで、自分の課題として考えることができるであろう。
- ② 意見交流を通して多様な考えに触れさせることで、命を大切にすることについての道徳的価値

を理解することができるであろう。

(6) 準備

- ・紙芝居
- ・場面絵
- ・発問用短冊
- ・ワークシート

(7) 展開

	学習活動と○主な発問◎中心発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 命について考えていくことを知る。 ・誕生学の授業の感想を聞く。		・授業参観で、命が誕生するまでの様子や命が誕生したときの様子について学習したことを想起させ、命について考えようとする方向付けを図る。
展開 前段 3分 2分	2 紙芝居の読み聞かせを聞いて話し合う。 ○かなこは最初アメリカ人のことをどう思っていましたか。  ○どうしてアメリカ人のことがきらいだったのでしょうか。  ○片腕を失ってしまった13歳のみよこは、どんな気持ちだったでしょう。  3 みよばあちゃんの話聞く。 「アメリカ人をうらんではいないよ。」 「わるいのは、戦争だよ。・・・」  ◎みよばあちゃんの話聞いたかなこは、みよばあちゃんの幸せは、どんなことだと思ったでしょう。 <b>(自分タイム)</b> <b>(グループ交流タイム)</b> <b>(全体交流タイム)</b>  ○みよばあちゃんから、かなこが学んだことは何でしょう。	・きらい ・だいきらい  ・大好きなおばあちゃんの腕を奪ったから。  ・とても苦しい。 ・つらい。 ・かなしい。 ・生きるのがつらい。  ・戦争で手は失ってしまったけど、命は助かったこと。 ・生きているから、孫のかなこに会えたこと。 ・生きているから、楽しいこともあること。  ・命は大切であること。	・あらすじを確認しながら、みよばあちゃんやかなこの気持ちを考える。  ・まだ、13歳だった頃のみよばあちゃんの苦しみ、悲しみに共感させる。  ・みよばあちゃんの台詞から、人を憎むのではなく、「戦争」を憎んでいることをおさえる。  ・片腕を失って、つらく、苦しく、人生に絶望したが、生きていたから、子や孫に恵れ、幸せな人生を送ることができている。そんな、みよばあちゃんの幸せに気づかせる。  ・みよばあちゃんが戦争を生き抜いたから、孫のかなこが存在することに気づかせる。
展開 後段 8分	4 命の学習をして、考えたことをまとめる。 <b>(ふり返りタイム)</b>  ○今日は、命について学習したので、命について考えた事をワークシートにまとめましょう。 ・キーワードを使って、まとめさせる。(考える視点) 「大事だと思ったことは」「これまでの自分は」「これから大事にしたいことは」		・教材から離れて、自分のこととして考えさせる。 ・命は大切であり、命は繋がっていることに気づかせる。
終末 2分	5 教師の話聞く。 担任教師と祖母との体験談を語ることで、命の大切さを伝える。		みよばあちゃんは、実は、担任教師の祖母であることを伝える。

(8) 評価

命の大切さに気づき、命を大切にしようとする心情を育てることができたか



#### 4 授業仮説の検証

##### (1) 仮説検証のためのワークシート

###### ① ワークシートの記述内容による評価

評価の尺度をA～Cの3段階に設定し、キーワードの有無によって判断する。

例えば、資料1では、これまでの自分をふり返ると共に、これから大事にしていきたいこととして「人をほめてあげて、友だちをつくりたい、なかまに入れてあげたい」などの具体的な記述があるため、Aと判断した。一方資料2では、「みよばあちゃんはすごいし、大じだなと思いました。」とあり、資料から離れることができず、登場人物についてのみ記述してあるので、Cと判断した。

###### ② 児童のふり返りによる自己評価

授業仮説の「心に響く教材」の有効性と「意見交流」の有効性やねらいの達成状況を判断するため、評価項目を5つ設定し、項目ごとに「とても」～「ぜんぜん」の4段階で自己評価させた。項目の1, 2は、主に心に響く教材に係る内容、項目3, 4は意見交流に係る内容となっている。また、項目5は本時のねらいに係る内容となっている。

道とくワークシート **からすたろう**

1月15日 2年 組 番 ( )

1 だれとでもなかよくするためにはどうしたらいいのか、自分の考えを書きましょう。(キーワード:「学習してだいじだと思ったことは」「これまでの自分は」「これからだいじにしていきたいことは」) 自分のこととして考えよう!

今日の学習でだいじだと思ったことは人のすごいことに気づいてあげて、ほめてあげることです。これまでの自分は人がすごいことをしても、あんまりほめていなくて、あんまり友だちがすぐには、できなかつたので、ほめてあげて、友だちをたくさんつくりたいです。これから、だいじにしていきたいことは人をほめてあげて、なかまに入れてあげることです。

2 今日の日ゆぎょうをふりかえりましょう。

		とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	今日のお話は、ここにひびきましたか。	☺	☺	☺	☺
2	今日の学習では、友だちとなかよくすることについて、自分のこととして考えることができましたか。(自分は)	☺	☺	☺	☺
3	グループタイムやほっぴょうタイムでは、友だちの考えを聞いて、「なるほど」「自分と同じ考えだな」「いい考えだな」などとかんじることができましたか。	☺	☺	☺	☺
4	友だちの考えを聞いて、自分の考えがまとまったり、自分の考えがかわったりしましたか。	☺	☺	☺	☺
5	今日の学習で学んだことは、大切だなと思いますか。	☺	☺	☺	☺

資料 1

道とくワークシート **みよばあちゃんのしあわせ**

1月22日 2年 組 番 ( )

1 いのちの学習をして、考えたことを書きましょう。(キーワード:「学習してだいじだと思ったことは」「これまでの自分は」「これからだいじにしていきたいことは」) 自分のこととして考えよう!

たいじだと思ったことは、アメリカ人がわるいじゃなくて、せんそうかわるんだよ。とみよばあちゃん が言っていたので、人のせいにしてないから、みよばあちゃんは、すごいし大じだなーと思いました。

2 今日の日ゆぎょうをふりかえりましょう。

		とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	今日のお話は、ここにひびきましたか。	☺	☺	☺	☺
2	今日の学習では、いのちの大切さを自分のこととして考えることができましたか。(自分は・・・)	☺	☺	☺	☺
3	グループタイムやほっぴょうタイムでは、友だちの考えを聞いて、「なるほど」「自分と同じ考えだな」「いい考えだな」などとかんじることができましたか。	☺	☺	☺	☺
4	友だちの考えを聞いて、自分の考えがまとまったり、自分の考えがかわったりしましたか。	☺	☺	☺	☺
5	今日の学習で学んだことは、大切だなと思いますか。	☺	☺	☺	☺

資料 2

##### (2) 検証の視点と評価結果

2回の検証授業で活用したワークシートの記述内容や児童のふり返り（自己評価）をもとに、表1を作成した。これに基づき、授業仮説の検証を行う。

表1 検証の視点と評価結果（対象児童 2年3組）

検証の観点 (検証方法)	判断基準	A : あてはまる (よくできた)	B : 概ねあてはまる (できた)	C : あまりあてはまらない (できなかった)	D : 全然あてはまらない	からすたろう	みよばあちゃん
(1) 教材が心に響き、感動を与えることができたか。 (ふり返りの自己評価)	A	・とても心に響いた。				100%	100%
	B	・心に響いた。				0%	0%
	C	・あまり心に響かなかった。				0%	0%
	D	・全く心に響かなかった。				0%	0%
(2) 道徳的価値を自分のこととして考えたり、これからの自分の生き方について考えたりすることができたか。 (ワークシートの記述)	A	・「これから大事にしていきたいことは」のキーワードを使って、これからの自分の生き方についての記述がある。				80%	84%
	B	・「これまでの自分は」のキーワードを使って記述しているが、これからの自分の生き方についての記述がない。				0%	0%
	C	・登場人物の心情についての記述しかない。				20%	16%
(3) 意見交流を通して、多様な感じ方や考え方に触れることができたか。 (ふり返りの自己評価)	A	・友達の考えを聞いて、「なるほど」「自分と同じ考えだな」「いい考えだな」などと感じることもよくできた。				80%	100%
	B	・友達の考えを聞いて、「なるほど」「自分と同じ考えだな」「いい考えだな」などと感じることもできた。				20%	0%
	C	・友達の考えを聞いて・あまりできなかった。				0%	0%
	D	・友達の考えを聞いて・ぜんぜんできなかった。				0%	0%
(4) 意見交流を通して道徳的価値の理解を図ることができたか。 (ワークシートの記述)	A	・道徳的価値の大切さに気づき、これから大事にしていこうという気持ちの記述がある。				16%	76%
	B	・道徳的価値の大切さに気づいてはいるが、具体的な内容の記述がない。				64%	12%
	C	・資料から離れることができず、主人公の心情理解などの記述しかない。				20%	12%

① 授業仮説①について

教材が心に響き、感動を与えたかについて、「とても心に響いた」と回答した割合は、「からすたろう」「みよばあちゃんの幸せ」共に100%であった。ワークシートには、「お話は感動しました。」「この授業のことは、一生忘れません。」と記述してある児童もいた。また、道徳的価値について、自分のこととして（課題として）とらえることができた割合は、「からすたろう」は80%、「みよばあちゃん」は84%であった。以上のことから、心に響く教材は、児童が道徳的価値を自分の課題として考えるのに有効であるといえる。

## ② 授業仮説②について

意見交流を通して、多様な考え方に触れたかについて、「よくできた」と回答した割合は、「からすたろう」では80%、「みよばあちゃんの幸せ」では100%であった。また、道徳的価値を理解することができたかについて、「からすたろう」では、「よくできた」割合は16%で、「できた」割合64%を合わせると、80%になる。また、「みよばあちゃんの幸せ」では、「よくできた」割合は、76%で、「できた」割合の12%を合わせると、88%になる。以上のことから、意見交流の場の設定は、道徳的価値の理解を図るのに有効であるといえる。

## V 研究の結果と考察

### 1 主体的に学習に取り組ませることができたか。

道徳科における主体的な学習とは、「自分との関わりで道徳的価値について考えること」であり、「これからの自分の生き方について考えること」である。この2つの視点に沿って検証した。

まず、アンケートの「道徳的価値を自分のこととして考えることができましたか」の質問に「よくできた」と答えた児童は、検証前は42%だったのに対し、検証授業後は92%となり、50ポイントも増えた(図2)。このことから、児童は、道徳的価値を自分のこととして考えるようになったことを実感していることがうかがえる。

次に、「これからの自分の生き方について考えることができたか」について、児童のワークシートを基に検証を行った。図3は、児童のワークシートの記述内容から評価した結果である。記述内容の中に、これから大事にしていきたいことやこれからの自分の生き方について書いてある児童は、「からすたろう」では、80%で、「みよばあちゃんの幸せ」では、84%であった。

以上の分析結果から、児童が主体的に学習に取り組むことができたと考えられる。

### 2 自らの考えを深めることができたか。

道徳科において、自らの考えを深めるとは、「多様な考えに触れ、物事を多面的・多角的に考えること」であり、「道徳的価値を理解すること」である。この2つの視点に沿って検証を行った。

まず、「多様な考えに触れ、物事を多面的・多角的に考えることができたか」については、授業のふり返り(自己評価)の「自分の考えがまとまったり、考えがかわったりしましたか」の項目を基に検証した(図4)。「みよばあちゃんの幸せ」「からすたろう」ともに、88%の児童が、「よくできた」と回答している。さらに、「まあまあできた」を合わせると、100%になる。このことから、児童は、多様な考えに触れ自分の考えがまとまったり、変わったりしたことを実感していることがうかがえる。

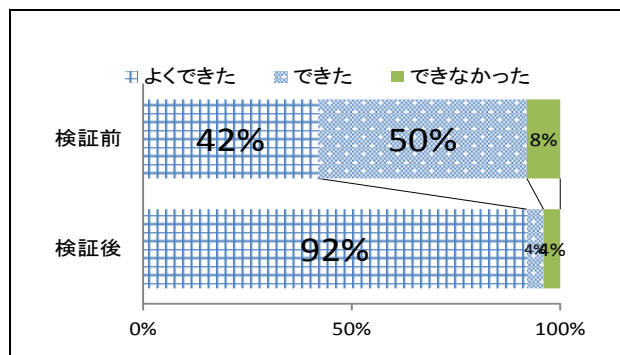


図2 道徳的価値を自分のこととして考えることができたか

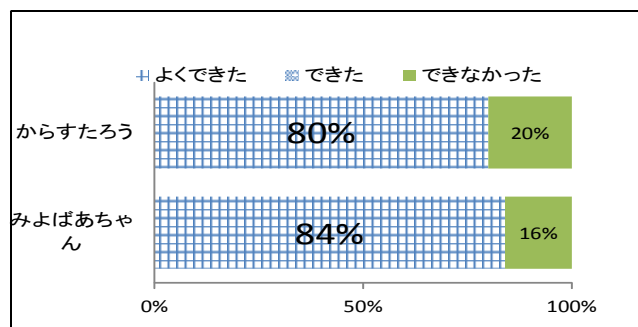


図3 これからの自分の生き方について考えることができたか

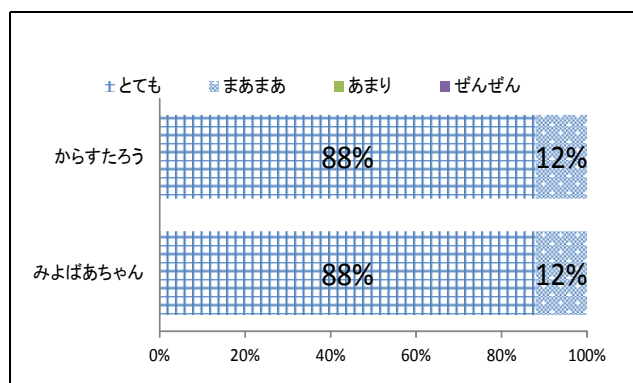


図4 自分の考えがまとまったり、かわったりしましたか

次に、「道徳的価値を理解することができたか」について、児童のワークシートの記述内容を基に検証した(図5)。評価の判断基準として、本時の道徳的価値について、大切であると気づくことと、さらに、これから大事にしていこうという気持ちを記述してある児童を、「よくできた」と評価した。また、道徳的価値の大切さについて気づいてはいるが、具体的な内容の記述がないものを「できた」と判断した。その結果「からすたろう」では、「よくできた」児童は、16%、「できた」児童は、64%で、合わせると、80%になる。また、「みよばあちゃんの幸せ」では、「よくできた」児童は、76%「できた」児童は、12%で、合わせると88%になる。

以上の分析結果から、児童は、自らの考えを深めることができたと考える。

一方、「からすたろう」よりも、「みよばあちゃんの幸せ」の方が、「よくできた」割合が高いのは、グループ交流タイムにおいて、代表児童の発表の仕方を改善したり、ワークシートの設問を改善したりした結果であると考えられる。このことから、児童に自らの考えを深めさせるには、ワークシートの設問の工夫やグループの話し合いの工夫が必要であることが分かった。

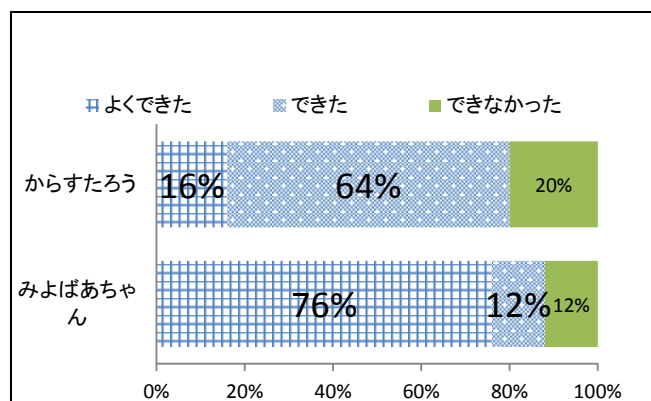


図5 道徳的価値を理解したか

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 児童の心に響く教材を開発し活用することで、道徳的価値を自分の事として捉えさせるとともに、これからの自分の生き方について考えさせることができた。
- (2) 意見交流の場を設定することで、多面的・多角的に考えさせることができると共に、道徳的価値の理解を図ることができた。
- (3) 心に響く教材を開発・活用し、意見交流の場を設定をすることで、児童が学習に主体的に取り組み、自らの考えを深める授業づくりに繋がった。

### 2 今後の課題

- (1) 登場人物の心情理解にのみ偏ってしまう子に対して、自分の事として考えさせるための手立て
- (2) グループ交流タイムや、全体交流の場において話し合いが深まるような工夫
- (3) ワークシートの設問の工夫・改善

### 〈主な参考文献〉

文部科学省	「心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」	財務省印刷局	2002年
文部科学省	「小学校学習指導要領解説 道徳編」	東洋館出版社	2008年
佐藤幸司著	「道徳授業は自分でつくる」	日本標準	2008年
加藤宣行著	「道徳授業を変える教師の発問力」	東洋館出版社	2012年
加藤宣行・竹井秀文 編著	「深く考える道徳授業」	光書院	2015年
文部科学省	教育課程課 初等教育資料 9月号 臨時増刊		
	「特別の教科 道徳」の実施に向けて	東洋館出版社	2015年
新木寿友著	「道徳教育12月」 N o 690,	明治図書	2015年





